

レポート作成に向けて

3. 確かめる—結果と分析

(1) 事実の記述・意見の記述

*どちらの文が事実の記述か？

- ・ ジョージ・ワシントンは米国の最も偉大な大統領であった。
- ・ ジョージ・ワシントンは米国の初代の大統領であった。

・ 事実として述べている

・ 考えとして述べている

- ・ (inference)…ある前提にもとづく推理の結論
例：彼は（汗をかいているから）暑いにちがいない。
- ・ (judgment)…ものごとの在り方、内容、価値などを見
きわめてまとめた考え
例：彼女はすぐれた実験家であった。
- ・ (opinion)…自分なりに考え、あるいは感じて到達した
結論
例：リンをふくむ洗剤の使用は禁止すべきである。

●論文作成においては、事実と意見を明確に書き分けなければならない。

【Practice】

*次を、事実として述べたもの、推論として述べたもの、意見として述べたものに区別せよ。

- ①私は死刑制度など必要ないと思う。
- ②現在、世界の国では、法律上死刑を廃止しているか、あるいは事実上死刑を行っていない国の方が数が多い。
- ③死刑には犯罪を抑制する効果があると主張する人たちがいる。
- ④死刑があることによって犯罪を思いとどまった人などほとんどいないだろう。

(2) 言葉が与える印象

[A新聞]

〇〇大臣を取り囲んだ市民から、多くの質問や疑問の声があがったが、大臣はそれを平然と無視した。

[B新聞]

〇〇大臣を取り囲んだ群衆から、多くの罵声が浴びせられたが、大臣は冷静さを失わなかった。

*読者に与える印象はどうだろうか？

【Practice】

*次の空欄に当てはまる適当な言い方を考えよ。

- ①よく言えば[]、悪く言えばケチ。
- ②よく言えば母親をとても慕い大事にする息子、悪く言えば[]。
- ③政府は、よく言えば[]が、悪く言えば、一貫した方針をもてずに場当たりの指示を出すばかりだった。

【Practice】

*同じ事実に対して、それを次に示す見方とは異なる見方で表現してみよ。

- ①そこには 30 人もの人たちが集まっていた。
- ②北海道じゃなければ食べられなかったあの店が、東京に進出してきてくれた。
- ③太郎はその授業に一回も欠席しなかった。しかし、よく遅刻した。

- 論文作成においては、言葉が与える印象に気をつけ、慎重に用いる言葉を吟味する必要がある。

レポート作成に向けて

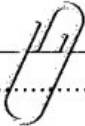
実習(実験) 報告書を作成しよう

課題研究を進めるときには、どのような実験をしたのかという記録をとっておくことが重要です。それに備えて、夏に広島大学の施設で実施された実習(実験)について、自分がどのようなことをしたのか、という報告書(レポート)を作成しよう。分量は無制限ですが、読みやすく、わかりやすくまとめること。実習(実験)の時に自分たちが撮影した写真などを利用する。当日配布された資料もうまく利用しましょう。

○報告書の作成について

探究活動が終了したら、各自が工夫して報告書を作成する。報告書は、自分が行った探究活動のまとめであるとともに、探究活動の成果をほかの人に正しく伝え、ほかの人が同じような研究を行う場合の参考となるものでなければならない。よい報告書を書くためには、探究活動の内容をよく理解し、正確に書くことはもちろんのこと、わかりやすい文章で、簡潔、かつ客観的に表現することが求められる。

報告書の作成内容



[題目]	探究活動の内容をわかりやすく簡潔に書く。
[実施日・報告者名]	実施年月日、所要時間、天候、気温、場所、班、共同実験者名などを書く。
[目的]	探究活動の目的をよく理解して、自分自身の言葉で書く。
[予想・仮説]	課題に対する予想や、実験結果の予測や仮説などを書く。
[準備]	使用する器具、装置、薬品などの名称を書く。
[方法]	・実験方法を簡潔に、箇条書きで記入する。 ・必要ならば装置図や実験過程の流れ図などを書く。
[実験結果]	・色、におい、沈殿の状態などの観察事項を正確に記入する。 ・測定実験の場合には、生のデータをそのまま記入する。 ・生のデータをもとにして、そこから計算をして結果を求める場合は、 計算方法なども省略しないで記入しておく。 ・結果は、グラフ化したり、表にまとめたりするなど工夫をする。
[考察]	・実験結果からわかったことや、導かれた結論などを書く。 ・予想や仮説と比較し、矛盾があれば修正する。
[あとがき]	反省や感想を書く。
[参考資料]	報告書のなかで引用したり、参考にしたりした資料を列挙する。 ホームページを活用したときは、URLや検索日を記す。

【作成上の条件や注意点】

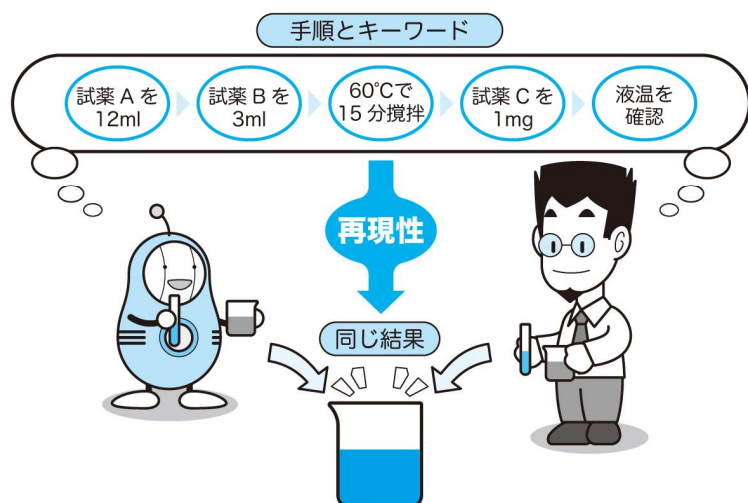
- 最初に自分の出席番号と名前を記述すること。
- 実習の内容（テーマ）が複数ある場合は、今回は1つに絞って書く。
- レポートには、自分たちで撮影した写真を必ず入れ、さらに図を入れるなどして、分かりやすいように工夫すること。
- 調べて参考にした本などがあれば、最後に参考資料として書名、著者名、出版社などを書いておくこと。インターネット上の情報であっても同様に書いておく。著作権に注意。
- 内容（流れ）については、「報告書の作成について」を参照して、これに沿ったものにすればよい。

4. 再現性

○再現性： _____

POINT!

- なにかの手順を説明する文書では「再現性」が大事
- 読み手がそれを再現できるのに十分な情報を提供すること
- 曖昧な箇所がないか何度も点検しよう



CC BY-NC-SA

© 2019 Kentaro Fukuchi, Takasuke Sonoyama

*文章を読んだ他の人がその調査や実験を同じように実施してみて、同じような結果が得られるのであれば、その結果の（ ）は高まります。

*再現性を高めるために

- []・[]・[] を明確に書く
- ・ ・ ・ 取扱説明書、のつもりで！

・() をする

観察中、実験中は分からなかったことを、自分で調べて補足しましょう。ただの資料の写しにならないように、太田が読んでも理解し、再現できるように、分かりやすく補足してください。

著作権

文章やイラスト、写真などの著作物^{ちよさくぶつ}には、その著作者に著作権がある。もちろん、自分が作成したレポートなどには、作成者である自分に著作権がある。著作権をもつ人以外が著作物を無断で使用することは、法律で厳しく制限されている。

Web ページなど、他人が作成したものを使用するときは、著作者の許諾^{きょだく}を得る必要がある。引用を行う場合は、次の点に配慮^{はいりよ}する。

- ① 引用をしなければならない必然性があり、必要な量のみ引用であること。
- ② 引用した部分にカッコをつけるなどして、自分が書いた部分と区別できるようにすること。
- ③ 全体の主張のなかで、自分が書いた部分がメインで、引用した部分が補足的であること。
- ④ 引用する著作物の著作者名や題名などを明示すること。